

練学歯だより

No.22

練馬区学校歯科医会広報

<http://www.nerigakushi.tokyo>

2017年3月発行

目次

- p.1 …… ご挨拶
練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二
- p.2 …… 平成28年度歯科保険アンケート調査報告書
練馬区学校歯科医会
- p.7 …… 平成28年度給食後の歯みがき推奨校への
アンケート調査報告書 練馬区学校歯科医会
- p.10 …… 給食後の歯みがきと歯肉の状況について
～口腔内写真を用いた歯肉の判定～
練馬区学校歯科医会学術委員会
- p.14 …… 抄録 特別支援学級におけるアンケート調査の報告
～お口の健康と食習慣について～
練馬区学校歯科医会学術委員会
- p.14 …… 第67回関東甲信越静学校保健大会に参加して
富士見台小学校 蓮池 敏明
- p.15 …… 平成28年度全国学校保健・安全研究会と
全国学校歯科医協議会 古田 裕司
- p.16 …… 第80回全国学校歯科保健研究大会 名古屋昌宏
- p.17 …… 平成28年度練馬区立小学校長・中学校長との
研修協議会 名古屋昌宏
- p.17 …… 新入会員の声
練馬区立旭丘中学校 大橋 一朗
練馬区立関町小学校 藤田 哲郎
練馬区立上石神井中学校 上田 和也
練馬区立開進第一小学校 浅見 律
練馬区立大泉第二小学校 新野 幹樹

会長挨拶

練馬区学校歯科医会会長 草柳 英二

平成27年4月1日より校長会長職を拝命して依頼、早くも2年が経過しようとしております。私は、練馬区の児童生徒の歯と口の健康のために練馬区学校歯科医会の果たすべき事業と目標に向かい、練馬区学校歯科医会全員と共に教育委員会・東京都学校歯科医会・日本学校歯科会等のすべての業務に最善を尽くし努力をしまいいりました。学術事業として、「学校保健と給食後の歯磨きのアンケート調査」「特別支援学級のアンケート調査」「歯科講話の作成」を遂行し、練馬区学校保健大会・東京都学校歯科医会研究大会で発表・報告等を行ってまいりました。特に給食後の歯みがき推進事業は、教育委員会と共同で5年間もの長い期間を継続して推し進めてまいりました。日本学校歯科医会・日本小児歯科学会等も、学校教育の場から食後に時間を空けずに歯みがきをする習慣づくりを推奨いたしますとの見解をだしておりますので今後も教育委員会・学校長会等に連携および協力をお願いし、普及率向上に努めていきたいと考えております。広報事業としましては、「練学歯だより」の冊誌化を行い教育委員会・他地区学校歯科医会・練学歯会員等に配布、普及いたし、今後も継続してまいります。また、本会待望のHPを本年4月25日に練馬区学校歯科医会HP (<http://www.nerigakushi.tokyo>)として立ち上げました。本会の沿革から活動状況・上部組織情報・学術情報等(特に今年度の練馬区図画ポスター・作文コンクール入賞作品)を掲載、学術的な必要資料はパワーポイントでダウンロードも可能であります。また行政・各学校ホームページ等多くの団体にリンクもしておりますので、一度ご覧ください。最近の学校歯科医会の動向は、「学校歯科健康診断と口腔機能の評価」「OA化の学校歯科健康診断の取り組み方」「児童虐待・ネグレクトにおける学校歯科医の役割」「ライフコース疫学と学校歯科保健」「フッ化物に関する保健」などが挙げられますが、本会としては特に練馬区学校歯科保健の必要十分な事項に関する事業展開を進めたいと考えております。

来期も練馬区児童生徒の歯と口の健康を支軸に、本会会員の先生方と練馬区歯科医師会・練馬区歯科医師連盟・各大学支部同窓会と共に連携・協力して学校歯科保健事業を促進して行きたいと考えておりますのでよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

平成28年度歯科保健アンケート調査報告書

練馬区学校歯科医会

委員長：西 克昌 副委員長 西村滋美
委員：生田剛史 瓦井 徹 石塚 亨 宮本一世
担当理事：郷家英二 南 誠二
草柳英二 金田和彦

今回、練馬区学校歯科医会学術委員会において練馬区立小学校・中学校に対し、平成23年に続き平成28年にも同じ歯科保健アンケート調査を行ったので、その調査結果を比較報告する。

1. 目的：練馬区立小・中学校の児童・生徒における歯・口の健康のための啓発事業を推進し、今後更なる健康教育充実を図るため、各学校の環境と現況を把握すべくアンケート調査を実施した。

2. 調査期日

平成28年6月1日発送、平成28年6月20日回収終了

3. 調査対象校

練馬区立小学校 65校、練馬区立中学校 34校 計99校

4. 回答校数

平成28年 99校／99校(小学校65校、中学校34校)

記入者の職種

副校長：4名、養護教員：94名、名前のみ：1名



5. アンケート内容・調査結果

1) 「秋の歯科健診を行っていますか」の問いでは

「はい」が54校(小学校43校、中学校11校)、「いいえ」が45校(小学校22校、中学校23校)であった。

また、「はい」のうち「全学年」実施している学校は41校(小学校38校・中学校3校)、「一部生徒のみ」実施している学校は12校(小学校4校・中学校8校)であった。無回答が1校あった。

一部実施している学校の対象者は、小学校では「特別支援学級児童全員」「春の歯科健診で未処置があり処置が完了していない児童」で、中学校では「受診勧告書未提出者」「1年生」「2年生」「特別支援学級」「未受診の生徒(歯並びは除く)」などであった。

2) 「児童・生徒に、給食後の歯みがきを行うよう推奨していますか？」の問いでは

「はい」が13校(小学校9校、中学校4校)、「いいえ」が86校(小学校56校、中学校30校)であった。

小学校の「いいえ」では「6月の歯と口の衛生週間時に全校で行なっている」「まだ今年度保健便りで給食後に歯みがきをしてもよいことを周知した程度です」「全員ハブラシを持ってくるように言っていないが、してもよいと言っている(ハミガキの時間などは特に設けていない)」「ぶくぶくうがいの推奨はしています」などの意見があり、

中学校の「いいえ」では「思っているが実際声かけしていない」「保健委員会活動(朝礼・ポスター)などでの呼びかけは実施」「今年から取り組み予定」などの意見があった。

3) 「歯みがきを行なう手洗い場のスペースは、十分満たしていますか?」の問いでは「はい」が5校(小学校3校、中学校2校)、「いいえ」が92校(小学校60校、中学校32校)、無回答2校(小学校2校)であった。

4) 「歯の救急保存液はありますか」の問いでは「はい」が97校(小学校63校、中学校34校)、「いいえ」が2校(小学校2、中学校0校)であった。

歯の救急保存液を「前年度に使用したことがある」では「はい」が25件(小学校18件・中学校7件)、「いいえ」が71校であった。その他、保存液はあるが使用について無回答が5校あった。

5) 「パソコンで歯科講話などを行なう場合に、モニターや外部コネクタを完備している教室などがありますか(プロジェクター以外)」の問いでは「はい」が55校(小学校35校、中学校20校)「いいえ」が40校(小学校27校、中学校13校)であった。無回答が4校あった。

小学校の「はい」では「大型テレビ・テレビにつなげられる程度」、小学校の「いいえ」では「特別な部屋(教室)は無いので、必要な場合は普通教室に準備しておこなっています」という意見があった。

<ご意見・ご要望について> 以下のご意見・ご要望が寄せられた。

○ 小学校

* 給食後の歯みがきについて

・手洗い場のスペースが少ないので全校児童はできない。矯正を行っている児童がかりつけ歯科医から昼食後の歯みがきを指導されているので、何人か行っている。(今年度保健便りで紹介し希望者は歯みがきできることは知らせた。)

・はみがき実施はしていませんが、給食後のブクブクうがいを呼びかけています。

・給食後にぶくぶくうがいは推奨しています。

・区の校長会を通してなどして、給食後の歯みがきを推奨していただく文章を出していただいた方が、学校としてすすめやすいです。今、忙しすぎて新しいことを始めることに對して教員の抵抗が大きいため。

・6月4日から10日の歯と口の健康週間には、歯みがきの推奨をしている。

・毎食後の歯みがきは推奨しているが、“給食後”となると時程や手洗い場のスペースの問題からも全体では難しい。給食後の歯みがきを希望する児童へは許可している。

・給食後の歯みがきについて、一斉に実施すると施設や時間、安全面の配慮などが不可欠である。

特に昼休みは委員会活動等指導その他で見守りができない担任が半数はいることから、「安全が確保できない」、と担任の不安は大きい。保健指導等を通じて歯みがきしたい児童・歯並びの悪い児童・はえかわり期の児童等の食後の歯みがきはすすめている。少数の児童や歯列矯正中の児童がゆっくりと歯をみがいている。

- ・歯科校医の先生にご相談し“給食後のうがいの励行”の声かけを行うようにしています。

- ・給食後の歯みがきについて、全児童に推奨していくことはまだむずかしい。(施設面、時間、ハブラシ保管場所……等による)今年度、歯みがき指導をした学年に(その日だけでも)呼びかけてみようと思う。

- ・給食後の歯磨きの大切さは十分わかります。しかし、給食後は清掃時間、その後昼休みと時間の設定ができません。

- ・給食後の歯みがきについて、希望者がいたらできるようにしたいですが、校内での検討が必要で、なかなか検討のタイミングがなく、先のばしになってしまいました。

* 歯科保健指導について

- ・毎年3学年で、学校歯科医の先生に歯みがき指導をしていただいています。その結果か、年々むし歯の保有率も少なくなっています。今後も、歯科校医の先生のご協力をいただきながら、巡回歯みがき指導や資料を活用し、歯みがき指導を充実させていきたいと思います。

- ・昨年度、練馬区歯科衛生士さんに来て頂き歯科保健指導、歯垢染め出しなどを実施した。とても良かったのでできれば毎年実施してほしい。

- ・歯科校医さんが4・5年に歯科指導、講話をしてくださっていて有難いです。保健所の歯科衛生士さんが毎年きていただけると良いなと思います。

- ・保健所の歯科衛生士さんによる歯科指導を毎年にしてほしい。

- ・保健相談所の巡回指導がとても効果的です。どうかご検討をいただけないでしょうか。

* 歯の救急保存液について

- ・歯の救急保存液は10年以上前から救急バック、職員室、保健室に常備してあります。そのまま処分することが多いのですが、昨年度学校長を通して学校歯科医会様より保存液を配布していただき感謝しております。ありがとうございました。

○ 中学校

* 秋の歯科健診について

- ・秋の歯科健診は文化行事が立て込むシーズンなので非常に難しい

* 給食後の歯みがきについて

- ・保健だよりなどで歯磨きの推奨をしている

- ・給食後の歯みがきについては「した方がいいネー!」位にとどめています。流し場も5クラスに1つしかない状態のため、もし全員がとなるとなかなかできなくなりそうなこと。又、歯科指導ではとてもお世話になり今後も中学1年生で毎年1回実施させたいと思います。(現在、隔年実施です)是非毎年お願いいたします。

＊歯科保健指導について

・知的障害のある生徒の歯科指導(保健指導)をどう行っていけばよいか知恵がありません。巡回指導の1つとして考えてもらえないでしょうか

7. 考察

秋の歯科健診を実施している学校は平成23年度には小・中学校合わせても全体の約1/3しか実施されていなかったが、平成28年度には1/2以上の学校で実施されていた。これは練馬区教育委員会から練馬区の小・中学校に対し、秋の臨時健診の実施要請が通達され、また練馬区学校歯科医会(以下練学歯とする)からも会員に向け健診の実施を働きかける通達がなされた事による成果であったと思われる。(図1)

一方給食後の歯みがきを推奨しているかは、平成23年度は19.8%に対して平成28年度は13.1%と減ってはいるが、これは推奨の程度に対する意識の違いで、「毎食後の歯磨きは推奨しているが、給食後となると難しい」という意見があるように積極的に推奨したいけれど、時間の問題などでできないという現状が、数字の低下に現れたものかもしれない。(図2)

手洗い場のスペースが不十分な学校が平成23年度87%平成28年度93%と高い割合を示し、増加しているのは具体的に給食後の歯みがきを検討していただいた結果でもあると思われる。(図3)

歯みがきを推奨していない理由を「給食の片付け、掃除などで歯みがき時間が取れない」「歯ブラシ保管の問題(衛生面)」の他に、「担任が見守りできないので安全を確保できない」と理由を挙げている学校もあり、これだけ多くの学校が給食後の歯みがきを推奨していない現状を鑑みて、この問題は単に手洗い場など設備だけでは解決できない。制限された時間内でいかに効率よく歯みがきを実施し、歯ブラシの保管を学校管理か自己管理するかの他に安全の確保など多面的に取り組む必要がある。今後、練学歯としてどのように示唆することができるのかが検討課題である。

歯の救急保存液は、現在練学歯より配布しているのでほぼすべての学校で保有しているとの回答があり、また歯の救急保存液を使用した件数も増えている。しかし歯の再植は歯根膜の適切な保存と早期の処置が不可欠である為、その使用方法についても確実な指導が必要であると思われる。(図4、図5)

歯科講話は学校歯科医が児童・生徒に対し、歯・口の健康教育を直接行なえるもっとも重要な機会といえる。昨今、パソコンを使用して歯科講話を実施している学校歯科医の先生方が多くなっており、練学歯でもパワーポイントによる歯科講話集を作成している。そこで一般的な講演で使用するプロジェクター以外に教室などで使用できるモニターや外部コネクターなどを完備しているかを調査したところ、小学校で54%、中学校で67%の学校で電子黒板や大型モニターなど何らかの電子媒体で授業が行なえるとの回答があったが、平成24年に比べるとかなり減っている。しかしこれは設備が減ったわけではなく、同じ設備に対する回答者の認識の違いで、長く設備を使っている平成28年のほうが正確な数字を表わしていると思われる。(図6)

8. まとめ

今回の歯科保健アンケートの結果、秋の臨時歯科健診の実施など確実に成果をあげている事例など今後一層要請を続けていくが、給食後の歯みがきについては設備の問題だけではなく、取り巻く環境の問題など多面的に取り組む必要がある。そして歯の救急保存液の常備や使用方法の徹底、電子媒体を用いた歯科講話に対応できる資料の作成など引き続き進めていく必要がある。

このアンケート調査をもとに練馬区の児童・生徒の歯と口の健康のための啓発事業を推進し、更なる健康教育の充実に役立てるためにも、練学歯の会員や教育委員会、学校さらに保護者への積極的な働きかけと相互の連携が必要である。

今回、練馬区立小・中学校のすべての学校から回答を頂いた。ご協力頂いた各学校関係者には感謝する次第である。

○平成23年度と平成28年度のアンケート調査結果の比較



平成28年度給食後の歯みがき推奨校へのアンケート調査報告書

練馬区学校歯科医会

委員長：西 克昌 副委員長 西村滋美
委員：生田剛史 瓦井 徹 石塚 亨 宮本一世
担当理事：郷家英二 南 誠二
草柳英二 金田和彦

練馬区学校歯科医会学術委員会が平成23年度に続き平成28年度に実施した歯科保健アンケート調査の結果から練馬区立小学校、中学校の中で給食後の歯みがきを実施または推奨している学校を対象に、その現状を把握する為のアンケートを行ったので、調査結果を報告する。

1. 目的：給食後の歯みがき推奨校に対してアンケート調査を行い、学校の現状を把握し、給食後の歯みがきを推奨するための参考資料として今後の歯・口の健康のための啓発事業に役立てる。
2. 調査期日 平成28年6月1日発送、6月20日回収終了
3. 調査対象校 平成28年度歯科保健アンケートにおいて、給食後の歯みがきを実施または推奨していると回答があった練馬区立小中学校 計13校(小学校9校、中学校4校)
4. 回答校数 小学校 9校 、中学校 3校 計12校
5. アンケート内容・調査結果
 - 1) いつ頃から実施していますか
1年前から数十年前とバラつきが見られた。
 - 2) 実施状況を教えてください。
 - ①歯みがき開始時間について
「給食後直ぐから昼休みの間に」が大多数であった。
 - ②歯みがき時間について
殆どの学校が自由との回答であった。
なかには2分間タイマーをセットしているクラスもあった。
 - ③歯磨き剤について
小学校では1校使用は自由で6校は使っていないが、中学校では3校とも使っていた。
 - ④先生も一緒におこないますか
一緒に行っている学校は、約半数であった。
 - ⑤実施している学年について
全学年実施しているのは、6校であった。
特別支援学級のための他に「高学年になるとやっている子が減る現状あり」
「委員会・他のことで時間がとられて!?時間があってもやらない子がいるようです。」という報告もあった。
 - ⑥実施している場所について
小学校では手洗い場と教室が半々であったが、中学校では全て手洗い場であった。

3) 歯ブラシの管理について

ほとんどが各自で保管であったが、教室内壁面に設置されているBoxに保管が1校の他、特別支援学級では滅菌器や手洗い場の上にコップを各自置き、そこに歯ブラシを入れているなどの回答もあった。

4) 洗口場・手洗い場について

足りていると回答した学校は2校のみであった。

足りていないと回答した中で、スペースが2～3倍ほしいが大多数であった。

5) 児童・生徒の歯みがき時の反応や感想など

* 良かったこと

- ・気持ちがいい。
- ・口がすっきりする。
- ・歯を大切にする意識は育っている。
- ・むし歯や風邪の児童が少なくなった。
- ・眠気がさめる。

* 悪かったこと

- ・時間がない。めんどくさい。手洗い場でやってもいいじゃん。
- ・スペースがたりず、トラブルがおきやすい。
- ・水道が足りないので、廊下で待つ列ができる。

* その他

- ・まだ、うがいから導入したばかりなので、歯みがきは9月導入予定なのでよくわからない。
- ・やるものだと思っているので特に反応はない。
- ・5時間目に体育の授業がある場合は時間がない。

6) 先生方の歯みがき時の意見や感想など

* 良かったこと

- ・習慣ついてきている。
- ・歯に対しての意識が高まる。
- ・歯みがきをすることでむし歯が減った。
- ・むし歯や歯周炎の予防になる。基本的な生活習慣が身に付くのでよい。

* 悪かったこと

- ・歯ブラシを口にくわえて終わる子もいる。(特別支援学級)
- ・くわえたまま移動、水場の混雑等からの危険回避、安全指導、管理が十分にできない。
- ・全員がやれているかまで見とどけられていない。
- ・スペースがたりずトラブルがおきやすい。
- ・している時間に他の児童がみられない。
- ・手洗い場が混み合っていて使えない。

* その他

- ・生活時程に組み込まれていない。クラスによってやる時間、やり方がちがうようだ。
- ・洗口場が少ない。指導や管理に対する不安の声が強く、導入については教員

の反対が一番強かった。

- ・行事を避けているので特に困っていることはない。歯磨きカードの色塗りなど子ども達に奨励している。

7) 貴校で独自に実践している事

- ・まずはうがいから実施し、歯みがきする機会を設ける(できる人はやるというスタンス)ということで教員の理解を得、実施にふみきった。
- ・6月と11月の年2回、一ヶ月間実施している。
- ・歯磨きカレンダーの色塗り、給食後には音楽を流している。
- ・ぶくぶくうがいの推奨。
- ・歯みがきコンクール6月の1週間の期間限定で歯みがきコンクールを実施している。(給食後に歯みがきをしている生徒の多いクラスを表彰する取り組みです。)

8) ご意見・ご要望

・「学校でやらなくてはいけないことなのか」との教員からの疑問の声あり、「設置しているBoxに歯ブラシを入れるのは…衛生面でどうなんだ」との保護者の声あり、どれにも養護教諭一人に対応しなければならず、辛い場面があります。学校では、知識学習と歯みがき推奨、予防意識高揚に努め、実践の場は家庭であっていいように思う。本校では校医の先生の協力のもととても充実した歯科保健指導が実施されています。校医の先生の協力のおかげです。異動で久々に給食後歯みがき実施校にきて以前とちがって学校の中が忙しく時間に追われている(子供も先生方も)状況で(新たに)新たな事はできない。今やっていることを無理なく安全につづけていけるようにと思う。

・歯をみがく時間より遊ぶ時間を優先してしまいがちです。手洗い場の確保ができれば、そうじの時間のように歯みがきの時間を区一斉で確保できればと思うことはあります。施設面で難しいので、無理だとはおもいますが。

・歯みがきの実施は教員、養護教諭からの意見だけでは実施できない。学校歯科医の先生や、校長、副校長の理解と教職員の理解が得られて実施が可能なので、実施する際、校医の先生から助言や一言があれば実施しやすいと思います。本校は歯科校医の先生の力添えがあり、歯みがき導入になりました。

6. まとめ

今回のアンケートの結果、給食後の歯みがきについて、忌憚のないご意見が多く寄せられた。学校の設備の問題は、手洗い場の数については前回の結果で練馬区小・中学校の全体の93%が不足と答えており、今回推奨校でも2倍以上の手洗い場の数がほしいとの回答が多かった。手洗い場の十分な確保は、ハード面で歯みがき推奨の一助になると思われる。一方で、歯みがきに前向きな学校においては、先生による動機付けが認められ、その効果が歯みがきの実施に繋がっていると思われる。練学歯としては、歯科講話などを通して児童・生徒のみならず、先生にも十分な理解とモチベーションが得られるよう最新のエビデンスを基に、啓発活動の努力が必要である。また同時に、学校自体が多様化・多面化しており、児童・生徒・先生とも時間が不足している学校の現状を練学歯として理解し、安全で効率良い歯みがきの実施方法を模索していく必要がある。

最後に、今回アンケートにご協力頂いた12校の学校関係者に深く感謝する次第である。

給食後の歯みがきと歯肉の状況について ～口腔内写真を用いた歯肉の判定～

練馬区学校歯科医会

委員長：西 克昌 副委員長 西村滋美
委員：生田剛史 瓦井 徹 石塚 亨 宮本一世
担当理事：郷家英二 南 誠二
草柳英二 金田和彦

1. 緒 言

近年、給食後の歯磨きは児童・生徒の歯・口の健康に有効であると考えられ、推奨されている。練馬区学校歯科医会は、練馬区立小・中学校の児童・生徒における歯・口の健康教育の啓発事業の一環として、平成23年度に各学校の環境と現況を把握すべくアンケート調査を実施した。その結果、給食後の歯磨きを推奨している中学校は28校中7校であった。特に、歯肉炎は全国的にも中学生から増加する傾向にあり、将来全身へ影響を及ぼす歯周炎への進行が危惧される。歯周病予防のためにも、給食後の歯磨きの実施は児童・生徒の歯・口の健康に有効であると考え。そこで、給食後の歯磨き推奨校と非推奨校とで歯肉の状況に差があるのかを検討すべく、口腔内写真を用いて歯肉の状況を判定する研究を企画した。なお、本研究は練馬区学校歯科医会理事会内の倫理委員会にて承認を得た。

2. 方 法

1) 調査校数

練馬区立中学校 2校（昼食後の歯磨き非推奨校をA校、推奨校をB校とする）

2) 調査時期

A校：平成25年度秋の歯科健診

B校：平成26年度春の歯科健診

3) 調査人数 A校（第1学年）：男子92名、女子95名、計187名 B校（第2学年）：男子71名、女子41名、計112名 * 歯科健診前に本研究の趣意書を配布し、保護者および本人が本研究に同意・承諾を得た生徒のみを対象とした。

4) 調査方法（図1）

①撮影機材：CANON EOS 60D, MACRO LENS 100mm F2.8, MACRO LING LITE

②撮影条件：学校保健室内、午前中、窓より自然採光あり。絞りF16, シャッタースピード1/125s、ISO400、リングライト自動発光、同一人物による撮影。

③撮影部位：下顎前歯部唇側

5) 判定方法

A校B校計299名の歯肉写真画像はSDカードにJPEG形式で保存されたものを、匿名化ランダム化した。その画像を同一PCモニター上MacBook Pro 13inch LCD 解像度1280×800（Apple Inc. California）で、学校歯科医経験5年以上の7名が、同時に一症例ずつ30秒間観察し、学校歯科健診の歯肉の状況の判定基準に則り、健康・GO・Gを判定した。（表1）

なお判定前に、7名はあらかじめ日本学校歯科医会の視覚媒体（クイックマニュアルⅡ1）やパネル写真2））を学習した上、実際の口腔内写真を用いてキャリブレーションを行った。

表1 GO（Gingivitis under Observation）の定義

- | |
|---|
| 1. 歯肉に軽度の炎症症候が認められる者 |
| 2. 歯石の沈着は認められない者 |
| 3. 注意深いブラッシングを行うことによって炎症症候が消退するような歯肉の状態の者 |

日本学校歯科医会、歯・口腔の健康診断と対応（事後処置）
—CO・GOを中心に：2009より改変³⁾



図1 調査風景

3. 分析方法（図2、図3）

健康（0点）・GO（1点）・G（2点）として、観察者のスコアを合計したので、最低点は0点（7名全員が健康判定の場合）、最高点は14点（7名全員がG判定の場合）となる。

A校・B校の得点の分布を統計学的検定ソフト（JMP ver.10.0.2,SAS institute Inc, USA）を用いてグラフ化し、さらにWilcoxon法によるノンパラメトリック比較検定（有意水準0.05）を行い、昼食後の歯磨き非推奨校と推奨校の有意差について、男女合同と男女別に検証した。



図2 判定例
0点×2名+1点×4名+2点×1名=6点



図3-a スコア0点
(全員が0点)



図3-b スコア7点
(全員が1点)



図3-c スコア14点
(全員が2点)

4. 結果

①男女合同での比較（図4、図5）

平均はA校5.29点、B校3.95点となった。

Wilcoxon検定においては、P値が0.0005となり、有意差が認められた。

図4 ヒストグラム

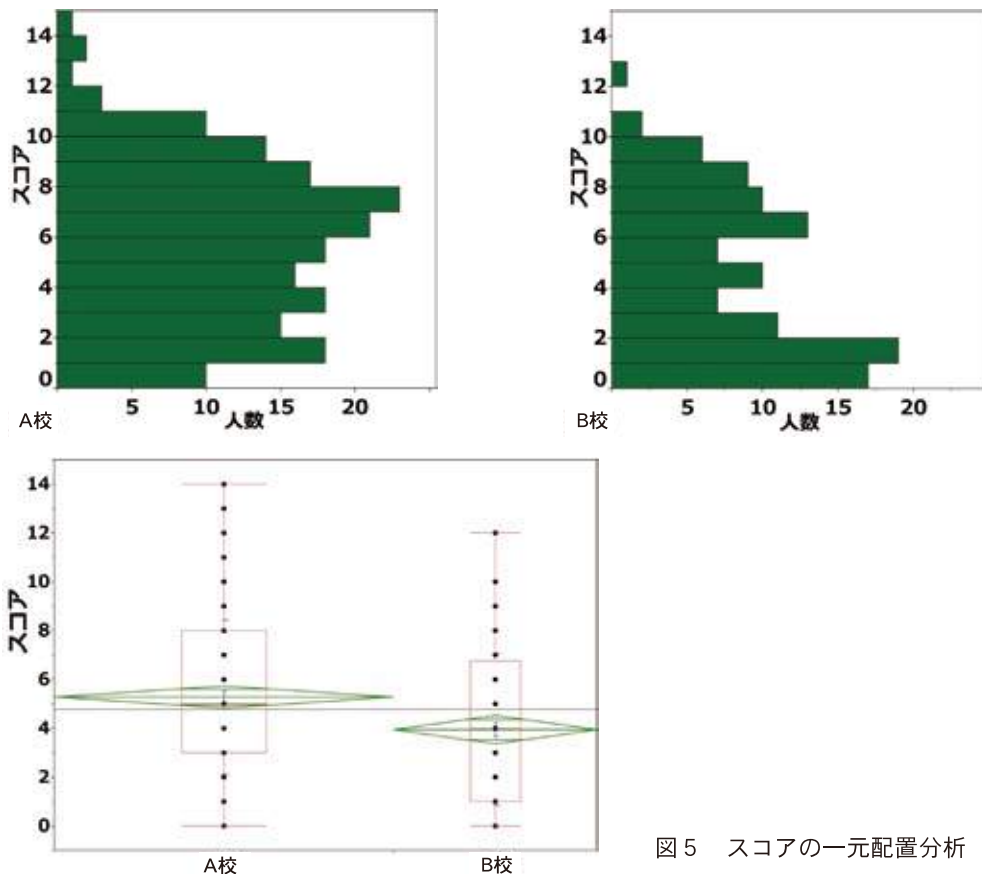


図5 スコアの一元配置分析

② 2校の男子の比較（図6、図7）

平均はA校5.87点、B校4.48点となった。Wilcoxon検定のP値は0.0095で有意差が認められた。

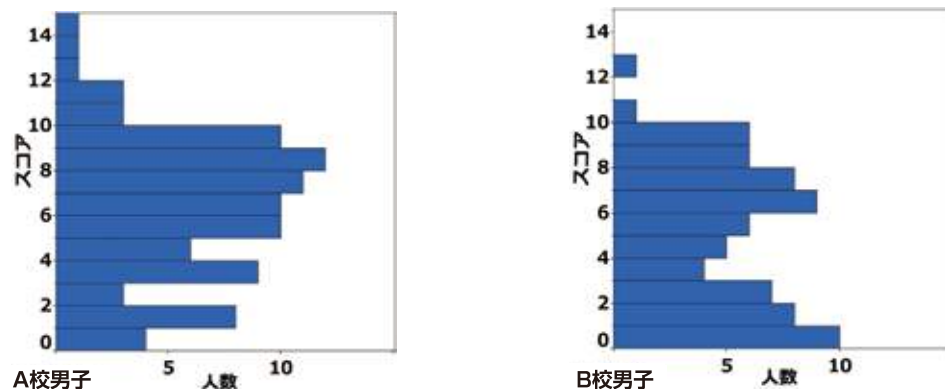


図6 ヒストグラム

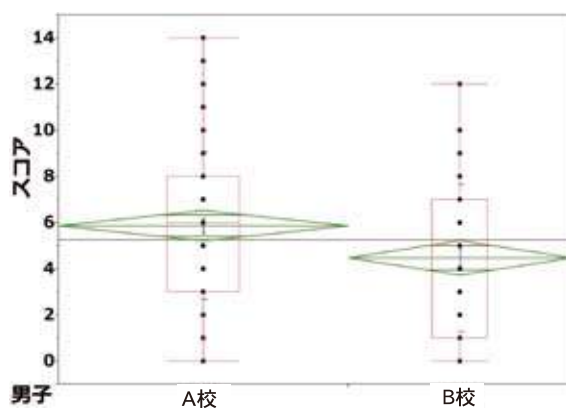


図7 スコアの一元配置分析

③ 2校の女子の比較（図8、図9）

平均はA校4.74点、B校3.05点となった。Wilcoxon検定のP値は0.0023で有意差が認められた。

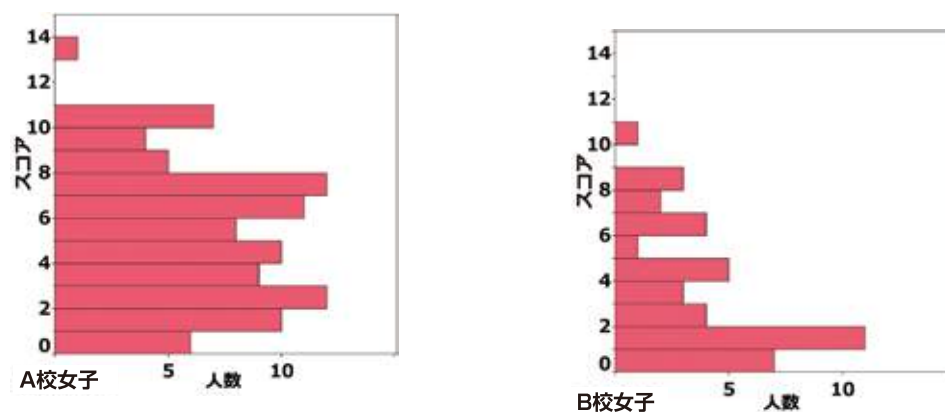


図8 ヒストグラム

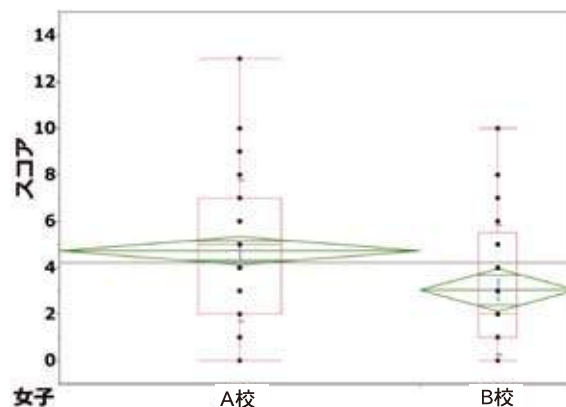


図9 スコアの一元配置分析

5. 考 察

平成7年度の学校歯科健診から、適切な保健指導と予防処置などにより改善できるGO（歯周疾患要観察者）という新しいステージが導入され、0（健康）、1（GO）、2（要精検）の3段階となった3）。GOは歯肉に軽度の炎症症状が認められるが、歯石は沈着せず、注意深いブラッシングによって炎症症状が消退するような歯肉の状態と定義されている。

今回基準として、7名の観察者が事前に日本学校歯科医会発行のクイックマニュアルⅡ1）やパネル写真2）を確認した。そこで7人の判定の合計、すなわち0点から14点の15段階に評価したが、口腔内写真を匿名化及びランダム化したので、バイアスがない条件での公平なスコアと考える。なお、調査時期がA校は1年生の秋の健診時、B校は2年生の春の健診時となったが、同学年の比較である。

Wilcoxon検定の結果、男女合同での比較は、給食後歯磨きの推奨校（B校）の方が、有意に歯肉の状態が良い結果となった。最頻値を比較してもA校が7点、B校が1点であり、グラフの形も異なっている。なお、両校の男女比に差があるため、性別に検定を行ったが、どちらも同様の有意差が認められたので性差は交絡因子でないと判断される。

島津ら4）は、中学生はう蝕や歯痛に比べ歯肉炎や歯ブ

ランシによる出血に対する受診意識が低いと報告している。
また、生活習慣が乱れやすい中学生以降における健康行動の定着を図る必要があると報告1）されている。今回の結果から給食後の歯磨きの推奨は、健康行動の動機付けの一助となり、生徒各個人の自主的な歯磨き習慣に繋がるものとする。（図10）



図10 推奨校の歯磨き風景

6. 結 論

給食後の歯磨きが中学生の歯肉炎予防に有効であることが示唆された。

【参考文献】

- 1) 日本学校歯科医会. 学校歯科医のための「生きる力」をはぐくむ学校での歯・口の健康づくりクイックマニュアルⅡ：2012
- 2) 日本学校歯科医会. 歯・口腔の健康診断パネル①：2008
- 3) 日本学校歯科医会. 歯・口腔の健康診断と対応（事後措置）—CO・GOを中心に：2009
- 4) 島津 篤, 笹原妃佐子, 野宗万喜, 内藤朱実, 杉山 勝. 中学生の種々の疾患や自覚症状に対する意識と受診行動について. 口腔衛生学会雑誌. 2013；63（5）：420-427

特別支援学級におけるアンケート調査の報告～お口の健康と食習慣について～

練馬区学校歯科医会

○西村 滋美 西 克昌 石塚 亨 宮本 一世 生田 剛史
瓦井 徹 南 誠二 郷家 英二 金田 和彦 草柳 英二

特別な支援を要する児童生徒にとって、歯と口の健康づくりは、生涯にわたる全身の健康づくりの基礎として重要な意味をもっている。今回練馬区学校歯科医会は、特に早い時期から支援が必要とされる特別支援学級の児童生徒の現況を把握し、今後の指導・教育の充実に役立てるため、区立小・中学校の特別支援学級の児童生徒の保護者に対してお口の健康についてのアンケート調査を行い、興味ある知見が得られたので報告する。

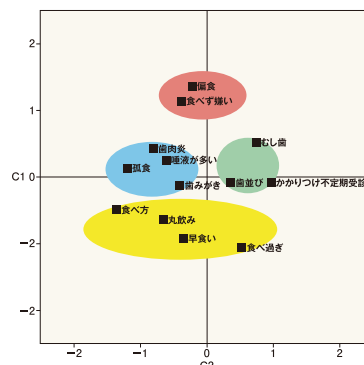
(回収率 51%、回答数 224 名)

集計結果より、保護者による後磨きの必要性、間食指導、また、窒息予防のため給食時の介助者の見守りや援助の必要性等が示唆された。さらに、かかりつけ医へ定期的に受診をしていない児童生徒の対応分析により、かかりつけ医への定期的な受診の必要性も示唆された。(図17)

特別な支援を要する児童生徒の歯科保健指導に際しては、児童生徒本人、保護者、担任、養護教諭、学校歯科医、かかりつけ歯科医がより緊密な連携をとりながら行われることが大切と考えられる。

***発表内容の全体については、練馬区学校歯科医会のホームページをご参照ください。**

図17 アンケート内容の対応分析



全児童、生徒のアンケート内容を対応分析した結果、かかりつけ歯科医に定期的に受診していない場合は歯並び・むし歯に困っている傾向が多くみられた。

第67回関東甲信越静岡学校保健大会に参加して

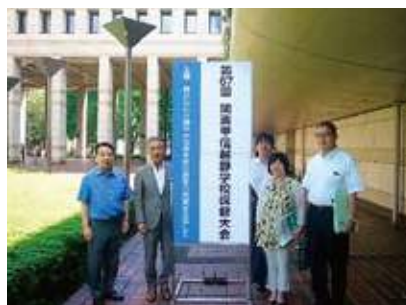
富士見台小学校 蓮池 敏明

去る平成27年8月27日に、静岡県コンベンションセンターおよびホテルセンチュリー静岡において第66回関東甲信越静岡学校保健大会と同歯科職域部会が開催されました。練馬区学校歯科医会からは草柳会長以下金田先生、小杉先生、名古屋先生、水野先生と私の6名で参加しました。東京都からは学校歯科医の他、学校医、教諭等、100余名が参加されたとのことです。

当日は東京駅に集合でしたが、生憎恵比寿駅近くで起こったケーブル火災(後に犯罪と判明)のためJ R山手線が運休し、各自振替輸送等で苦労して新幹線に乗り込みました。

学校保健大会の班別研究協議題は第4班 学校歯科保健「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」であり、歯科職域部会の講演は、I「学校歯科医の立場から食育を考える」モンゴル健康科学大学歯学部 客員教授 岡崎好秀先生、II「中学校における食育推進の実践」沼津市立長井崎中学校 学校歯科医 桑原聡先生／沼津市立大平中学校 養護教諭 山田忍先生でした。学校歯科保健と学校保健は密接な関係があると考えます。また近年小学生のDMF歯数の減少は目覚ましいものがあり、医科／歯科の有病率が近づいていますが、就学期を通した罹患率を考えると継続的な歯科健診は有効と考えられます。

学校歯科医はこれからも現代性を踏まえて活動が求められていくと痛感した出張でした。



平成28年度全国学校保健・安全研究会と全国学校歯科医協議会

練馬区学校歯科医会 古田 裕司

平成28年10月27日木曜日と28日金曜日の二日間にわたり札幌市において、標記大会と協議会がおこなわれました。当会よりも6名の会員が参加しました。

研究大会第一日目は札幌コンベンションセンターにおいて、まず開会式と受賞者の紹介がおこなわれました。文部科学大臣(代理)をはじめ行政、教育、医療分野から多くのご来賓を迎え盛大におこなわれました。

式典の後、記念講演が行われました。講師は「こころとそだちのクリニック」院長の田中康雄先生で、演題は「子供たちの学校生活を護ための校内連携と他職種連携」です。学校生活において子供たちの発信する様々なSOSに気が付く事。学校に持ち込まれる学習でのつまずきや、お友達との人間関係のトラブルや、家庭生活でのストレスに的確に対処していく事。特に発達障害や被虐待児症候群の場合は、医師をはじめとする様々な業種の専門家や保護者との連携が大切であることが述べられました。

その後、京王プラザホテル札幌の会議室に場所を移し、全国学校歯科医協議会に参加いたしました。こちらの開会式にも文部科学大臣(代理)をはじめ多数のご来賓がいらっしゃいました。続いて文部科学大臣表彰受賞の先生方が紹介された後、二題の特別講演がなされました。



一題は日本学校歯科医会会長丸山進一郎先生による「学校歯科保健の魅力」で、学校歯科のこれまでの目覚ましい成果と、これからの青少年の健全な発育に果たす学校歯科の役割についてのべられました。もう一題は北海道医療大学歯学部口腔構造機能発育系学系小児歯科学分野教授の齋藤正人先生による「最近増加している小児口腔の問題点と小児歯科臨床」です。最近、齲蝕は激減していますが、その反面、外傷や歯列不正などの小児口腔の問題点の適切な対処が重要である事をのべられました。最後は懇親会が行われ情報交換と伴に全国的範囲で親睦が深められました。

研究大会二日目は課題別研究協議会です。私どもは第5課題「歯・口の健康づくり」に参加いたしました。

講師の明海大学学長の安井利一先生と、コーディネーターの東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長三ツ木浩先生により研究協議が進められました。3人の教諭が研究発表をして、会場からの質問に答える形で進行了。最後に安井先生が「生涯にわたる健康管理の基礎となる歯・口の健康づくりの進め方」という講義をされ研究協議会を終了しました。



来年の全国学校歯科医協議会は三重県で開催されますので、皆さまよろしく願いいたします。

第80回 全国学校歯科保健研究大会

名古屋 昌宏

上記大会が平成 28 年 11 月 16、17 日、文京区文京シビックホールにて開催されました。主題は「生き抜く力」をはぐくむ歯、口の健康づくりの展開を目指して。

副題は、明るい笑顔で未来をつくる学校歯科保健活動、でした。練学歯からは草柳会長以下役員全員が出席し、又全員の先生方の出席も見られました。



12 時 30 分より大会記念イベントとして今話題の書家、金澤翔子さんによる書道パフォーマンスがありました。「笑」という字を見事に書き上げられ、参加者より大きな拍手が沸き上がりました。

13 時から開会式が始まり、都学歯副会長 小嶋憲先生の開会宣言後、多数の来賓の方々の祝辞と 第 55 回全日本学校歯科保健優良校表彰式に移りました。

14 時 15 分から記念講演として T V 等で著名なジャーナリスト池上彰氏を迎え、「国際社会で生き抜く力」のタイトルでお話しして頂きました。次期米国大統領選挙という時宣を得た内容と又、氏のたくみな話術によってわかりやすくして楽しくもあり、大変勉強になったひとときだったと思います。

15 時 30 分よりシンポジウムに移り明海大学安井利一学長が「学校歯科保健活動の過去、現在、未来」の演題で基調講演をされました。シンポジストとして元福岡県春日市須玖小学校養護教諭 田中さえ子氏、日本学校歯科医師会常務理事竹内純子氏が意見を述べられました。安井学長は、乳幼児期の他律的健康づくりから自らの意思と努力で自律的健康づくりへの移行期は学齢期にある。自己健康管理能力の育成には極めて重要な時期であると述べられました。田中氏は、幼児期の健康教育の不可欠さと、幼児教育と小学校教育の連携の必要性を強く訴えられました。竹内氏は食と咀嚼の健康教育と五感を育む学校歯科保健指導の大切さを話されました。

2 日目は領域別研究協議会が開催されました。
中学校部会に参加し、中学生の歯、口の健康づくり教育は学校歯科医、養護教諭、教職員、保護者との連携の重要性を改めて確認致しました。
ポスター展示では練馬学歯学術委員の先生方の制作された 2 点

【演 題】

特別支援学級におけるアンケート調査の報告～歯、口の健康と食習慣について～

【演 題】

給食後の歯みがきと歯肉の状況について～口腔内写真を用いた歯肉の判定～

が大変好評で 50 部印刷のポスター（縮小版）がすぐになくなったそうです。

以上 2 日間に渡る大会が終了致しました。

平成28年度 練馬区立小学校長・中学校長との研修協議会

名古屋 昌宏

練馬区立小学校長、中学校長との研修会が練馬区立教育委員会の方々の出席のもと、9月29日及び10月13日に開催されました。

この会は校長と教育委員会、学校歯科医が直接懇親する事によって忌憚の無い意見を言い、お互いの信頼関係を強くし、今後の学校歯科保健の向上に役だてる有意義な会です。

小学校長の研修会では

演題 1「すくすく からだところ」

北町小学校長 石井友行先生

演題 2「練馬区学校歯科医会講話集より」
(小学校向)

学術委員会 西 克昌委員長

中学校の研修会では

演題 1「むし歯のでき方と予防法」(中学生用)

学術委員会 西 克昌委員長

演題 2「歯周病と予防する正しい歯みがきをしよう」
(中高生用)

学術委員会 宮本一世委員



乾杯の挨拶近藤勝洪先生



研修中の先生方



懇談中の先生方



HP 委員会

学校歯科医に就任して

練馬区立旭丘中学校 大橋 一郎

平成28年9月より練馬区立旭丘中学校の校医を務めることになりました。宜しくお願い致します。未だ検診にもあたっておりませんが先日校長先生、副校長先生、養護教諭の先生とお会いし学校の現状、ご父兄との関わり合い、これまで前任の先生が行ってきた歯科検診内容、歯科衛生指導活動等、多岐にわたり説明していただきました。

中学生は多感な年頃であり色々な意味でストレスがかかりやすい時期です。診療所でも、この時期のお子さんの口臭等についての相談を受けることがよくあります。今後、私自身がこの時期に感じたことを思い出しながら私なりに皆さんと協力し合い、少しでも生徒さん達の健康管理に役立つよう努めていきたいと思っています。まずは29年春に生徒さん達と初めて会えることを楽しみにしています。

学校歯科医に就任して

練馬区立関町小学校 藤田 哲郎

この度、練馬区立関町小学校の校医を担当させて頂くことになりました。

勤務医の時代に、小学校でのブラッシング指導、及び勤務先医院に於いて、患者さんの口腔衛生指導を行った経験があります。開業以後は、そのような活動から遠ざかってしまいました。学校歯科医のお話をいただいた時には、少し戸惑い、不安感がありました。幸い、関町小学校の養護教諭の方の、児童の歯や健康に対する熱心さを身近かに感じるにわたり、少しずつ、自分のペースで活動できるようになってきました。

健診で気がかりなことは、少数の子供達の口腔衛生状態の劣悪さです。家庭環境も関係していると考えられます。この様な子供達を今後どのように指導するのかを、担当の先生方と一緒に考えていきたいと思っています。

諸先生方の御指導をいただきながら、頑張っていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

学校歯科医に就任して

練馬区立上石神井中学校 上田 和也

平成28年度より練馬区学校歯科医会会長の草柳 英二 先生から上石神井中学校の学校歯科医のお話を頂き、清水 徹先生の後任として、就任いたしました。

私は、学校歯科医は、未経験のため最初は戸惑いましたが、地域活動のお手伝いとして引き受けさせて頂きました。

私は、昭和61年12月に練馬区石神井台に開業して以来、ずっと歯科医として、練馬区教育委員会の「歯科健康診断結果のお知らせ」を持参した生徒を対象に治療にあたっていました。今度は生徒全員の「歯科健康診断の結果のお知らせ」を渡す立場に変わり、治療を担当される先生方へバトンタッチする為に大きな責任を感じております。

また、学校で歯・口の健康づくりの手助けをすることになり大変な事だと思いましたが、幸い学校歯科医会の諸先輩方のアドバイスをいただき、最初の健診や公衆指導を終え、小・中学校長先生と一緒に研修会・懇談会を通して、少しずつではありますが慣れてきました。

微力ではございますが、小林 広志 校長先生をはじめ、行政・練馬区歯科医師会の諸先生方のご指導のもと、少しでもお役に立てるよう取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

学校歯科医に就任して

練馬区立関進第一小学校 浅見 律

今年度より学校歯科医にご指名をいただき、厚く御礼申し上げます。今年で大学を卒業して30年になります。卒業当時はちょうどバブル景気が始まったところで、世の中が活気に溢れていました。

小児歯科の治療も当時は活気に溢れていて勤務先の診療所が郊外にあり、また時代背景も予防という概念が浸透していなかったせいか、午後になると待合室は小児の患者で溢れかえっていました。

新卒者の仕事は小児歯科の治療が中心で子供を押さえつけて日々格闘していましたが、予防するという時間的なゆとりは無く、歯磨き指導をしたという記憶はほとんどありません。それでも何の疑問も問題もなく通用していたので、今とは隔世の感があるなあとしみじみ思います。

時代が変わって現代では予防意識が高まり、都内では12歳のDMF歯数が1本弱(30年前の5分の1)くらいと聞いていたので、検診は楽なんだろうと思っていました。

ところが今回初めて小学生の検診をして全体像を把握して思ったことは、予想以上に「虫歯が多い」ということでした。

ブラッシングのできていない子が多く、歯肉炎も多くみられましたので、検診だけでもけっこう大変な作業でした。

もしかしたら、12歳のDMF歯数が少ないのは、乳歯が抜けて虫歯が少ない年齢になるからなのか、または地域性なのか、よく分かりませんが、まだまだやり甲斐のある仕事だなあと痛感いたしました。

日本では未だに歯磨きは、歯に着いた食べかすを取るためと思われがちですが、細菌が産生するプラークをとるという概念を身につけさせ、適切なブラッシングを覚えてもらいたいと思います。また歯は治療しても人工物で補修しているだけで決して治るのではないことも認識させたいと思います。

また口呼吸の子供も多く診受けられましたが、冬にかけてマスクを着用することで口呼吸を助長したら本末転倒になってしまうので、そういう注意も必要かと思います。

新卒時の使命感と喜びを久しぶりに感じ、また新たにやりがいのある仕事が増えたことを嬉しく思っています。

これからもご指導よろしくお願いいたします。



新入会員の浅見先生

学校歯科医に就任して

練馬区立大泉第二小学校 新野 幹樹

佐々木征男先生のご逝去に伴い平成28年9月より大泉第二小学校を担当となりました、31班新野幹樹です。

膨らみ続ける医療費の削減は我が国にとって重要課題の一つであり、削減(会計的なものや意味不明の制裁的なものではなく根本的かつ普遍的な)の為には、健診は大きな役割を果たすと考えております。

学校歯科健診医の1人として、口腔疾患の予防と早期治療への勧告、さらにはその重要性を適切な情報と未来志向の理念を基により多くの学童・生徒とその家族の方々に理解して頂く事に一助叶えばと考えております。そのためにも当方も日々口腔衛生に纏わる知識を中心にその確認と更新に努めて参りたいと思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



新入会員の新野先生

編集後記

草柳執行部として第一回の練学歯だよりを発行し終えホットしたのがつい最近のことに思えます。早いものでもう第2回目の発行となりました。

今回本紙では、学術委員会のアンケート調査報告及び第80回全国学校歯科保健研究大会でのポスター発表を掲載致しましたが、学校歯科医の活動の参考になればと思います。また投稿をお願いしました先生方には、お忙しい中引き受けて頂き有難うございました。これからも先生方のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。

名古屋 昌 宏

永久保存版「練学歯だより」が2回目の発刊、いかがでしょうか。初版では、配布エリアを練馬区教育委員会・城北ブロック協議会等に、本年度はさらに拡張予定です。学術委員会報告を3件・全国学校歯科医協議会・練馬区立小・中学校との研修協議会・新入会員の声などを掲載、H29年度は会員の寄稿を期待しております。

来期も本会にご協力をお願い致します。

草 柳 英 二

<http://www.nerigakushi.tokyo>

平成28年4月25日練馬区学校歯科
医会HPを立ち上げました。
是非ご覧下さい。

発行日 平成29年3月13日
発行 練馬区学校歯科医会
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6丁目5-13
TEL 3557-0045(代)
FAX 3557-3553
発行人 草柳英二
担当理事 名古屋昌宏
印刷所 有限会社 かどや印刷
〒177-0042 東京都練馬区下石神井5-1-37
TEL 3997-0370
FAX 3995-0594